通巻133号

山王

亥歳新春号

新春を迎えて

日枝神社氏子崇敬会長　小池百合子

平成三十一年の新年を迎え、新春を寿ぎ謹んでお慶びを申し上げますとともに、日枝大神様の広大なるご加護が皆様の上に蒙り奉られ、本年も良き年となりますようご祈念申し上げます。特に本年は天皇陛下の御退位及び皇太子殿下の御即位と、わが国にとりまして極めて重要な一年となります。一連の国家行事が恙なく行われますことを祈念しております。

日枝神社の氏子崇敬会第七代会長を拝命してから、早くも二年弱の月日が流れました。この間、皆様からのお力添えを頂きながら、由緒ある日枝神社氏子崇敬会の会長という重責を果たすべく努めてまいりました。東京都知事としての任期も折り返しを過ぎ、気を引き締め直して都政に邁進する所存でございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、日枝神社は「江戸郷の守護神」として江戸の町の繁栄を支えたと伝えられております。江戸は明治維新を境に東京と改称され、以来関東大震災、東京大空襲、そして戦後の高度経済成長を経て、人口一三〇〇万を超える大都市に進化しました。また対外的にも国際都市東京として、経済や金融の面で海外の大都市と連携を深めながら、環境やテクノロジー、福祉の面では成熟した都市のモデルを示す役割も担っています。一方で、江戸時代から続く伝統の技や歴史も、レガシーとして次の時代へと引き継いでいかなければなりません。

そこで昨年東京都では、一八六八年の東京府開設から百五十年の節目を記念し、「Old meets New 東京150年」事業を実施いたしました。「江戸東京きらりプロジェクト」と題した江戸の伝統工芸の展示と体験型のワークショップなど、さまざまなイベントも行いました。開催まで約一年半となった東京オリンピック・パラリンピックでも、「伝統」と「革新」が共存する東京の魅力を発信していくため、広報等さまざまな取り組みを進めてまいります。

本年は亥年です。相場格言では「亥固まる」と言われております。昨年は戌年、「戌笑い」という格言通り、羽生結弦選手の五輪二連覇から始まり、将棋の藤井さんの史上最年少での棋戦優勝、エンゼルス大谷選手の華々しい活躍、甲子園での金足農業の大躍進、全米オープンでの大阪なおみ選手の優勝と若者たちの活躍を中心に微笑み溢れる賑やかな年と相成りました。

一方亥年は「亥固まる」、昨年の良き流れを更に確固たるものにすべく、東京も数々の具体策を実施してまいります。格言通り、しっかりと地盤を固め、更なる飛躍の土台を気付いていく所存です。

結びに、本年も国家の安寧と弥栄、日枝神社のご晋徳の昂揚とご社頭のご隆昌、氏子崇敬会の更なるご発展、また皆様のご健勝とご多幸を心から切にご祈念いたしまして、平成最後の年を迎えるにあたりましてのご挨拶とさせていただきます。

新春祭典・行事のご案内

一月　一日（火）
午前零時　若水祭
神能「ひとり翁」奉奏
山階彌右衛門師　奉仕
午前七時　歳旦祭

一月　三日（木）
午前十時　元始祭

一月　六日（日）
午後二時　奉納書初展感謝奉告祭
午後三時　山王奉書会（参集殿）

一月十三日（日）
午前十一時　印章護持祭

一月十五日（火）
午前九時　月次祭
午前十時三十分　神符焼納祭

一月十九日（土）～二十日（日）
神宮初詣旅行会

一月二十八日（月）
午後六時　新年互礼会

二月　三日（日）
午前十一時三十分
節分祭追儺神事

特別寄稿

参議院議員　山谷えり子

皇紀二六七九年、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

新年を迎えるにあたり、天下泰平、国土安穏、聖寿無窮、万民豊楽を祈念いたします。

朝、日枝神社に参拝してから仕事に向かっておりますが、外国人も含め年々、参拝者が増えていることを嬉しく思っております。

御代替わりを迎える己亥（つちのと・い）の本年は、成長が整い、次の準備を迎える年といわれています。

平和を成した〝平成〟の御代から、新たな時代の御代へと私たち国民の歓びと責任の大きさを改めて感じ入るものであります。

六十年前の己亥の年は、当時皇太子殿下でいらした今上陛下と美智子皇后がご成婚され、国内は祝賀ムードがピークとなりました。小学生だった私は、わが家で買ったばかりのテレビに見入り、喜びで心も体も弾むようでした。

本年五月の御代替わりでは、今上陛下が上皇に、皇太子殿下が新天皇にご即位あそばされます。

三十年余りのご在位の間、わが国と人々のことをお祈り続けてくださったことを国民こぞって感謝申し上げ、新天皇のご即位をお祝いしたいと存じます。

ことに、災害で犠牲となられた方々を悼み、被災者を慰め、警察・消防・自衛隊や自治体職員やボランティアなどの救護にあたられる方々を励まされるなど、人々にお心を寄せる両陛下のお姿は、心に深く刻まれております。

私も防災担当大臣在任時に、御岳山噴火、鬼怒川の堤防決壊などの対応、復旧にあたりましたが、両陛下の国民を思うお気持ちの深さに多くの国民が前に進む力をいただく姿を目にし、感謝と感動でいっぱいになりました。

また、同時に国内外の病院や高齢者施設、障害者などの福祉施設もご訪問され、多くの人々を励まし、勇気を与え続けてくださったことも忘れられません。

トロントにあるカナダ最大の小児病院を訪問された際に皇后陛下は、たくさんの子供たちに囲まれる中、「ゆりかごのうた」をお歌いになられました。三人のお子様を育てられたお母さまとして、この子守歌を選ばれたと聞きます。

そして、唄のおわりに、「今夜はよくお眠を。陛下と共に、皆さんの幸せを祈ります」と優しく語りかけられました。「皇室は祈りでありたい」「心を寄せ続ける」という思いとご姿勢に私たちはたくさんの勇気と愛の力をいただき、日々が豊かになる思いがしたものです。

我が国の根幹は、世界最古のご皇室をいただくという国柄にあるように思います。

その国柄の中で、私たちは美しい情緒、思いやり、敬神崇祖の心を育んできました。

現在、私は自由民主党の文化立国調査会長をつとめており、連綿と続く伝統を大切にしつつ、二〇二〇オリンピック・パラリンピック東京大会にむけ、日本の力の源である文化の力を全国津々浦々に浸透させていきたいと働いているところです。

地方創生、人生百年時代にもつながり、外国人観光客も日本の深い理解者となってくれるよう尽力してまいります。

日本の文化は祈り、寿ぎの心と自然との共生など美しさと喜びに満ちています。

世界が対立、混乱にある中、日本の文化発信が世界を調和へと導く力になるよう、力強い歩みを進める一年としたいと願います。

また、拉致問題対策本部長として、北朝鮮をめぐる状況が大きく動いている中、何としても拉致被害者の全員一括帰国にむけて結果を出していくよう力の限り働いてまいる所存です。一日千秋の思いで、被害者の帰国を待ち望むご家族との約束を果たすため、政府とも連携してあたっているところです。

結びにあたり国家の安寧と皆様のご多幸を心より祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

山王祭 —日本三大祭— 展開

江戸祭禮研究
山瀬一男

天皇陛下御即位奉祝

平成三十年は、今上陛下が即位されてから三十年の節目の年でありました。日枝神社山王祭も、産子各町が『今上陛下即位三十年奉祝』の旗等をかかげ執り行われ、全国各地でも奉祝として同様な祭禮を行ったことは記憶に新しいことと思われます。

さて、今上陛下は本年四月三十日をもって、皇太子殿下に御譲位なさいます（践祚）。そして本年十一月の大嘗祭（天皇即位後に行う最初の新嘗祭。天皇一世に一度だけ行われる祭）で、皇位継承したことを国内外に示す即位の礼が行われるのです。

明治以降、天皇陛下が即位されると国民は奉祝行事を行い、特に皇居のお膝元である東京では、大々的にそれが行われていました。

●明治四年十一月十七日
明治天皇大嘗祭豊明節會
●大正四年十一月十日
大正天皇御即位奉祝
●昭和三年十一月六日
昭和天皇御即位奉祝
●平成二年十一月十四日
今上陛下御即位奉祝

このように新天皇が即位されると、東京市民はこぞって御即位奉祝を行いました。その模様を大正天皇が即位された時を例にとって紹介したいと思います。（これは東京市役所発行の「御大禮奉祝志」や「記念写真葉書」を基に記述するものです。）

大正天皇の即位の儀は、大正四年（一九一五）十一月十日、京都御所紫宸殿で行われました。同十四日の大嘗祭に合わせて、東京では皇居前馬場先門附近に巨大な『萬歳奉祝門』

写真１

写真２

写真３

写真４

写真６

写真５

写真８

写真７

写真10

写真９

が建てられました。（**写真１**）東京市奉祝会場は上野公園に設けられ（**写真２**）東京の中心部となる各所に、様々な奉祝門が建てられました。（**写真３東京駅前　４京橋　５日本橋　６萬世橋　７九段坂上、その他四谷・下谷黒門町・本郷三丁目**）

また、桜田本郷町・土橋・新橋・今川橋・神田橋・両国橋・京橋南鍋町・下谷稲荷町・浅草雷門などの通り沿いには、豪華なイルミネーション付きの装飾が施され、特に日本橋から銀座にかけての中央通りでは、夜でも明かりが煌々と灯されました。

その中央通りを中心に、特別仕立ての市電『花電車』も十台ほど走り、そこに華を添えました。この花電車は、かつての天下祭の曳き物の流れを汲んだものだと思われます。（**写真８萬歳太平楽　９胡蝶の舞　10蓬莱山　等**）

江戸名物『天下祭の山車』も御仮屋を建て展示されました。

●日本橋際　日本橋西河岸「武内宿禰」（**写真11**）、日本橋通一丁目「神功皇后」（**写真12**）、魚河岸「弁財天」

●神田鍛冶町付近　鍛冶町「小鍛冶」、旭町「龍神」、堅大工町「飛騨内匠」（**写真13**）、豊島町「豊玉姫」、通新石町「徳歳神」（**写真14**）、

須田町「関羽」、佐久間町「素戔嗚尊」（写真15）

●外神田仲町付近　旅籠町一丁目「翁」、台所町「石橋」（写真16）、旅籠町二丁目「和布苅神事」（写真17）

なかでも魚河岸は、『祝大典』の揃いの半纏を着て、江戸橋から馬場先門へと黒牛曳きの山車行列を行い奉祝しました。（写真18）

その他、山車曳きの記録としては、日本橋区中洲町「鳳凰」、三田六ヶ町「渡辺綱」「神武天皇」「楠木正成」「牛若丸」ほか四本（子供用新造）、京橋区南鍛冶町一本、芝区西久保八幡町山車数本とその他が馬場先萬歳門へと進み奉祝しました。（写真19、20）

大正初期には、町神輿が多く造られていました。日本橋檜物町は神輿を出し、馬場先門にて萬歳奉唱。深川八幡産子町から三十九基の神輿が永代橋を渡り、馬場先門へ。牛島神社産子町八基、亀戸天神産子町六基、鳥越神社産子町十二基の神輿も、ぞくぞくと馬場先門へと向かい同じく萬歳奉唱をしました。（写真21、22）

その他赤穂義士の仮装行列や奉祝旗行列提灯行列等も各地区から組まれ、馬場先門へと向かいお祝いしました。麹町区では半蔵門外に国旗装飾塔が建ち、四谷見附に至る大通りには紅白三段幔幕が張り巡らされました。その他の各区にも様々な幕や旗が建てられ、東京市中は一変しました。

その様な最中、京都行幸に向かう陛下の車駕が馬場先萬歳門を通御しました（写真23）。東京市中（特に馬場先門附近）の雑踏や興奮は、いかばかりか想像に難くありません。

御大礼の前年の大正三年（一九一四）には、欧州で世界大戦が勃発しました。

江戸時代に鎖国を解き、明治期を通し近代国家となった日本は、この大戦で連合国側に加わり、名実ともに世界の一員となったわけです。そのような世界情勢の中、大正天皇の即位奉祝が行われていたのです。あらためてこの時代の日本の勢いが感じられます。

平成五年（一九九三）六月九日、皇太子殿下が御結婚されました。その日の午後にご成婚パレードがあり、同時刻山王氏子日本橋九段の神輿数基が、日本橋から新橋まで神輿

写真 11

写真 12

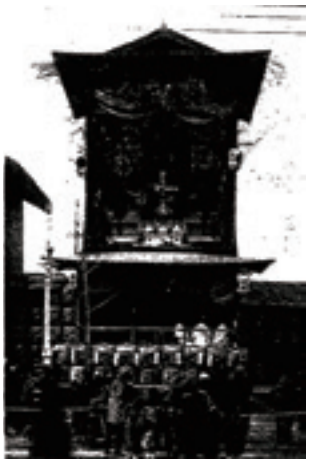
写真 13

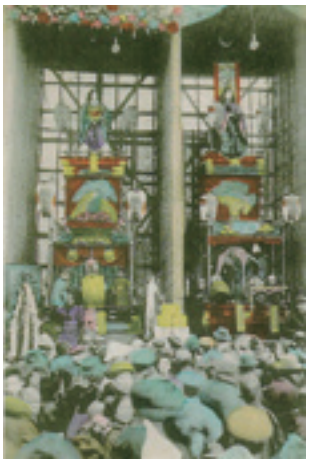
写真 14

写真 15

写真 16

写真 17

写真 18

写真 19

写真 20

写真 21

写真 22

写真 23

渡御をしてお祝いしたことを記憶されている方も多いと思います。

このたびは皇太子殿下が天皇陛下に即位される訳ですから、御大典の日に『皇城の鎮』たる日枝神社氏子、東京都民、そして日本国民はどのような奉祝行事で寿ぐことになるのでしょうか。

日本橋住人記す

謹みて新年の
御祝詞を申し上げます

頌春

平成三十一己亥歳

日枝神社

代表役員 宮司 宮西修治
責任役員 細田安兵衛
同 中澤彦七
同 福原義春
同 大澤忠政
同 澤田晴子
同 髙木茂
責任役員 権宮司 大塚正行

謹賀新年

順不同敬称略

㈱ぬ利彦 代表取締役社長 中澤彦七 3口

マネックス証券㈱ 松本大 3口

㈶答礼会 理事長 川上聡 3口

山王熱供給㈱ 代表取締役社長 津曲荒太

永田町・霞ヶ関・平河町

山の茶屋 遠藤恒夫

㈱ザ・キャピトルホテル東急 総支配人 末吉孝弘

日枝神社四葉会

㈱食文化総研 レストラン黒澤グループ 代表取締役社長 丸總子

㈱アルファビデオ 代表取締役 青山裕生

山王むらさき会

㈱植むらフーズ 代表取締役 十文字弘美

永田町 天竹 荻原秀夫

麹町・紀尾井町

㈱泉屋東京店 代表取締役 泉由紀子

㈱ニュー・オータニ 代表取締役社長 大谷和彦

㈱桜井食品 代表取締役社長 桜井勉

㈱ジャパングレーライン 代表取締役 眞下慶一郎

㈱ジョー・コーポレーション 代表取締役 堀切健司

弁護士法人一番町綜合法律事務所 代表社員 神﨑浩昭

㈲ナリタ美容室 代表取締役 成田弘子

麹町ビルディング㈱ 代表取締役 勝山勝

番町・九段・四谷

㈱伊勢半本店 代表取締役社長 澤田晴子

三番町 田中康博

池田薬局 池田新二

㈾清水隆商店 代表社員 清水昭治

袁千家 不審菴 家元 千宗左

㈱朝日写真ニュース社 代表取締役社長 阪田裕一

㈱千修 代表取締役社長 下谷友康

柴田税理士事務所 SHIVAベリーダンススタジオ 柴田哲義 恭代

大手町・丸の内・内幸町・有楽町

東宝㈱ 名誉会長 松岡功

㈱帝国ホテル 取締役社長 定保英弥

泉吉㈱ 代表取締役 岸本昌子

有楽町・美宝ビル 青山モリタビル 森田定亮

㈱東京會舘 取締役社長 渡辺訓章

TANAKAホールディングス㈱ 代表取締役社長 執行役員 田苗明

八重洲・日本橋

東京建物㈱ 代表取締役 社長執行役員 野村均

㈱ゆかり 野永喜一郎

㈱榮太樓總本舗 代表取締役社長 細田眞

頌春

平成三十一己亥歳

日枝神社

大総代 遠藤恒夫
同 関口弥寿雄
同 笠井清純
同 田中康博
同 池田新二
同 清水昭治
同 岡村好貴
同 松岡功
同 野永喜一郎
同 安西暉之
同 冨田正一
同 三枝進
同 小坂敬
同 北見芳夫
同 木村暖子
同 安倍洋子
同 羽田宇男
同 細田眞
同 亀岡恒方

謹賀新年

順不同敬称略

㈱高島屋 常務取締役 亀岡恒方	日本橋吉野鮨本店 吉野正敏	川崎定徳㈱ 代表取締役 川崎眞次郎	木村實業㈱ 代表取締役 木村平右衛門	中西瀝青ホールディングス㈱ 代表取締役 森口友美子	㈱プレナス 代表取締役社長 塩井辰男	金子架設工業㈱ 代表取締役 青木茂	**八丁堀 茅場町・兜町**	北見不動産㈲ 会長 北見芳夫 代表取締役 北見丈亜	㈾北見商店 代表社員 北見まさゑ	いちよし証券㈱ 代表執行役社長 小林稔	エスビー食品㈱ 代表取締役社長 小形博行
新日本不動産㈱ 代表取締役 中島信子	**京橋**	㈱大澤ローヤル 代表取締役 大澤忠政	㈱トミタ 代表取締役会長 冨田正一	㈱トータルオフィスパートナー 代表取締役社長 岩﨑浩	中島金属箔粉工業㈱ 代表取締役会長 中島武	**銀座 新橋**	㈱ギンザのサヱグサ 会長 三枝進	㈱小松ストアー 代表取締役 小坂敬	㈱木村商店 代表取締役 木村暖子	㈱小林傳次郎中央地所部 代表取締役 小林弘忠 代表取締役 小林久子	やす幸 石原壽 松井俊樹
㈱銀座ナイン 代表取締役社長 柴田孝則	正金商事㈱ 代表取締役 蛯原宗久	㈱新橋玉木屋 代表取締役 田巻章子	銀座越後屋 八代目 永井甚右衛門	㈱銀座木村家 代表取締役 木村美貴子	㈱ホッタ 取締役社長 堀田峰明	銀座吉田㈱ 代表取締役 吉田民雄	**崇敬者（氏子外）**	きねや足袋㈱ 代表取締役 中澤貴之	㈱錦屋マリエマリエ 取締役社長 勝田久美子	東京中央青果㈱ 代表取締役社長 鈴木敏行	京橋大根河岸会 会長 鈴木敏行
㈱フェム 代表取締役 藤田誠	㈱ミロク情報サービス 代表取締役社長 是枝周樹	㈱ホットアート 代表取締役 望月秀峻	鈴木徽章工芸㈱ 取締役会長 鈴木健之	㈱ナンシン 代表取締役会長 齋藤信房	㈱アーバネットコーポレーション 代表取締役社長 服部信治	㈱キョウエイアドインターナショナル 代表取締役社長 廣瀬勝巳	㈱糟谷 相談役 糟谷孝男	㈱井筒装束店 代表取締役社長 佐織鉄郎	㈱髙田装束店 代表取締役 加藤充則	㈱大槻装束店 代表取締役 大槻奈津子	佐竹昭二

頌春

平成三十一己亥歳

日枝神社

宮司 宮西修治
権宮司 大塚正行
禰宜 髙原聖司
禰宜 鎌田周作
権禰宜 土田幸大
同 八巻岳秀
同 片山徹
同 内田博之
同 杉山正吉史
同 手塚和記
同 松橋裕晃
同 高野大樹
同 勅使河原翔幣

謹賀新年

順不同敬称略

㈱桜井グラフィックシステムズ 代表取締役会長 桜井美国
㈱兵左衛門 代表取締役会長 浦谷兵剛
㈱なだ万 代表取締役 野原優
裏千家 今日庵 千玄室 宗室
㈱フォーシーズ 代表取締役会長兼CEO 浅野秀則
安全自動車㈱ 代表取締役 中谷宗平
㈱錦豊琳 代表取締役 鈴木光良
㈱丸井スズキ 代表取締役 鈴木貴博
廣田特許事務所 廣田雅紀
有楽商事㈱ 代表取締役 平沼顕司
佐藤産業㈱ 会長 佐藤太美雄
㈱信英堂 代表取締役 桜井俊一

朝日総業㈱ 代表取締役 池本なぎさ
㈱CMC 代表取締役 髙橋悦郎
㈱木村屋總本店 代表取締役 木村光伯

山王むらさき会

㈱アルファビデオ
㈱伊勢啓
㈱泉屋東京店
サロン・ド・ベル
㈱三雄
清月堂本店
㈱代庄
日本橋髙島屋
㈱東京凰月堂
㈲トーシン
㈱日本旅行公務法人営業部
花省
㈱フエム
㈲フローリスト響花
㈱マイプリント
㈱丸菱
㈱三越伊勢丹
㈱アンダンテ

酒は、これを神々に献り、その撤下（おさがり）をいただく事によって、うつうつとした気持ちが晴れやかになる百薬の長です。
当日枝神社の御祭神大山咋神は、古来、酒を司らせ給う東都の酒神と厚く信仰せられるところであります。

平成三十年例祭献酒醸造元芳名（順不同・敬称略）

新政酒造㈱
醉仙酒造㈱
秋田銘醸㈱
沢の鶴㈱ 東京支店
盛田㈱
大関㈱ 首都圏支社
賀茂鶴酒造㈱
ヤマサ醤油㈱ 東京支店
㈱三宅本店
キリンビール㈱
濱田酒造㈱
小西酒造㈱ 東京支社
宝酒造㈱
雲海酒造㈱ 東京支店
薩摩酒造㈱
霧島酒造㈱
日本盛㈱ 東京支店
辰馬本家酒造㈱
ヒガシマル醤油㈱
白鷹㈱ 東京支店
櫻正宗㈱ 東京支店
キンシ正宗㈱

菊正宗酒造㈱
月桂冠㈱ 東京支店
白鶴酒造㈱ 東京支社
中国醸造㈱
吉乃川㈱ 東京支店
太田酒造㈱
黄桜㈱
㈱ちくま食品
㈱山本本家
江井ヶ嶋酒造㈱
桃川㈱ 東京支店
豊島屋酒造㈱
石川酒造㈱
鍋店㈱
木戸泉酒造㈱
稲花酒造㈱
㈱家久長本店
天鷹酒造㈱
㈱小山本家酒造
㈱佐浦
㈱矢尾本店酒つくりの森
高井㈱

近藤酒造㈱
大信州酒造㈱
土田酒造㈱
七笑酒造㈱
山梨銘醸㈱
土井酒造場
本田商店
都錦酒造㈱
㈱酔心山根本店
㈱今田酒造本店
酔鯨酒造㈱
土佐鶴酒造㈱
千代の園酒造㈱
福光屋
桝田酒造店
栃倉酒造㈱
㈱丸山酒造場
北雪酒造
奥の松酒造㈱
和田酒造㈲
六歌仙

頌春

平成三十一己亥歳
日枝神社

名誉会長 石原慎太郎
会長 小池百合子
副会長 細田安兵衛
同 中澤彦七
同 福原義春
同 大澤忠政
同 澤田晴子
同 髙木茂
同 松岡功
顧問 石川雅己
同 矢田美英
同 武井雅昭
同 内田茂
同 立石晴康
同 河村潤子
監事 遠藤恒夫
同 南村員哉

平成三十年　回顧

一月

元旦　若水祭
歳旦祭
二日　國學院大學坂口吉一理事長参拝
小池百合子氏子崇敬会長参拝
三日　元始祭
六日　第五十四回奉納書初展感謝奉告祭
十五日　神符焼納祭
二十日　第五十六回神宮初詣旅行　至二十一日
二十二日　神社本庁統理総長副総長参拝
二十五日　新年互礼会

二月

三日　節分祭
十一日　紀元祭
十七日　祈年祭

三月

九日　第二回責任役員会
第二回神社総代会（大総代会）
氏子崇敬会評議員会
二十一日　春季皇霊祭遥拝

四月

二十日　末社山王稲荷神社例祭
二十九日　昭和祭

ひとり翁奉仕

新年互礼会

節　分　祭

五月

四日　御神田田植祭　於　千葉県香取市
十八日　第二回祭典委員会
二十五日　第三回責任役員会
第三回神社総代会（大総代会）
責任役員大総代会合同会

六月

一日　御垣内清掃奉仕
七～十七日　山王祭
七日　八坂神社例祭
八日　神幸祭
十五日　例祭
三十日　大祓並鎮火祭

七月

二十日　緑蔭朝詣りとラジオ体操の集い
開会奉告祭

八月

三日　責任役員会
四日　第四十回箸感謝祭
二十六日　奉賛青年会創立六十週年記念大会
三十日　星岡会（旧職員会）
三十一日　緑陰朝詣りとラジオ体操の集い
閉会奉告祭

駐輦祭

神　幸　祭

九月

二日　御神田抜穂祭於 千葉県香取市

十七日　第五十三回敬老祭

二十日　第四十六回山王祖霊祭

二十三日　秋季皇霊祭遥拝

二十四日　第五十一回中秋管絃祭

三十日　名誉宮司宮西惟道大人命一年祭

十月

五日　第十八回武蔵野御陵清掃奉仕

十七日　神嘗祭遥拝

十一月

三日　明治祭

五日　第四回責任役員会

第四回神社総代会（大総代会）

責任役員大総代合同会

二十三日　新嘗祭

十二月

一日　大麻神札頒布始祭

十日　責任役員大総代関係団体代表等合同納会

二十一日　責任役員会

二十三日　天長祭

三十一日　大祓並鎮火祭

除夜祭

大祓並鎮火祭

例　　祭

寄稿

文久二年山王祭附祭（つけまつり）の正月節供錦絵（上）

武蔵大学　教授　福原敏男

掲載の錦絵「新乗物町附祭礼」（神田神社蔵、以下、本図と表記）は、浮世絵師歌川芳艶が「若菜摘（まね）みの学び」を描いた作品で、平安貴族の正月行事を幕末の山王祭に模倣（真似び）した附祭の練物である。

文久二年六月十五日（西暦一八六二年七月十一日）の山王祭行列は、将軍が江戸城内で上覧した最後の天下祭となり、その前や氏子町の桟敷席等で附祭が演じられた。しかしながら、芳艶がこれを実見して描いたわけではなく、版元が附祭の情報を事前に得て描かせ、絵草紙屋にて、また祭礼当日売り出されたものの、実際の祭礼と異なるところもあるだろう。

さて、当時の山王祭において、氏子の町人は隔年祭の四十五番組による山車に加えて附祭を出した。江戸の祭礼では十八世紀中期以降、その時々の流行やニュース、芝居や物語の仮装や歌舞音曲を題材とした毎回新作の附祭を出して人気を博した。山王祭や神田祭では、天保改革前には十数種の附祭が出されたものの、同奢侈規制により三番組のみ、一番組に付き三種、計九種に制限された。以降、氏子町は傘を差し掛け踊りながら行列する「地走踊（じばしり）」、移動

文久二年山王祭附祭表

番組	附祭年番町	統一テーマ	趣向	音楽	音楽	現在地（現中央区、…相当を略す）
一七	小網町二丁目 小網町三丁目 小網町一丁目・横町	七五三	七夕 端午 上巳	練物 地走踊 踊台	常磐津 清元 長唄	小網町は日本橋小網町 小網町二丁目のみ人形町一丁目に及ぶ
一八	新乗物町 新材木町	三節（供）	正月 五月 九月	練物 地走踊 踊台	長唄 富本 清元	新材木町は日本橋掘留町一丁目・人形町三丁目 新乗物町は日本橋掘留町一丁目
二八	大鋸町 本材木町五・六・七丁目	松竹梅	松 竹 梅	練物 地走踊 踊台	清元 長唄 常磐津	大鋸町は京橋一丁目 本材木町五・六・七丁目は京橋一―三丁目

歌川芳艶画、三枚続錦絵「新乗物町附祭礼」（神田神社蔵）

舞台の「踊（屋）台」、仮装による行列や踊りの「練物」（狭義）にて参加した。

この両祭の附祭を担当した氏子町の出し物のみを描いた作品が伝来しており、担当町やその大店などが事前に専業絵師に注文し、記念や記録のため自分たちの出し物を描かせたが、それらには肉筆の祭礼図が多く、謂わばオーダーメイドである。これに対して、レディーメイドの複製（木版画）の商品、錦絵があり、本図のように担当町による一種類の附祭のみが描かれることが多かった。そのため、多売されたものか定かではないものの、芸能の家元クラスのスターや町娘など出演者の人気に支えられて商品化されたものと思われる。

さて、文久二年の附祭三組の内、山王祭第十八番組の新材木町と新乗物町は日の出を背景に松と鶴の山車、その後ろに附祭として、新乗物町の正月節供の練物、新材木町による五月節供の地走踊と九月節供の踊台の「三節の見立」にて参加した。表は同年の全附祭の構成である。

この三節供の附祭を芳艶が描いた、三種類、各三枚続の錦絵が伝来しており、未確認以外の八枚の大きさは一枚縦三五、六㎝、横二四、五㎝とほぼ同寸であり、三種とも左が酷似した囃子図、改印は戌五（文久二年五月）、版元は不詳（□に大印）である。以上の点より、これらは一セットとして制作・流通・販売された可能性もある。

平成三十年五月、筆者は國學院大學博物館との共編著『最後の天下祭―文久二年の山王祭―』（同博物館発行）を上梓し、絵本番付「山王御祭礼番付」（國學院大學図書館等蔵）の翻刻、口絵には上記の五・九月節供の錦絵を掲載した。同館准教授大東敬明氏の「歌川芳艶画「新材木町附祭礼」―口絵解題―」によると、新材木町附錦祭絵二種とも上部に同様の提灯と桜の造花が描かれているところからセットの可能性が指摘されている。芳艶は国芳の門人であり、右三種に先行して、師弟合作の三枚続錦絵「祭礼図」（個人蔵、練馬区立美術館編集・発行『国芳イズム―歌川国芳とその系脈』二〇一六年）を描いている。これも右三種同様、二枚が練物、左が囃子図で、上部には三つ巴紋の提灯と造花の飾りが配され、嘉永期の山王祭附祭と考えられる。また、芳艶は山王祭のみならず、三枚続錦絵「神田明神御祭礼の図」（江戸東京博物館蔵、上記山王祭附祭図とほぼ同寸、嘉永年間）を描いており、国芳没後の文久二年に上記を踏まえて、単独作の山王附祭図三種を描いたものと思われる。

この三種には現在以下の所在が確認されているが、同じ節供の錦絵は同版である。

正月：神田神社（囃子図のみ五月）、国立歴史民俗博物館二枚（褪色）、囃子図は欠

五月：日枝神社（筆者奉納）、国立音楽大学附属図書館竹内道敬文庫、日本芸術文化振興会。江戸東京博物館・神田神社・國學院大學博物館の囃子図のみ九月、国立歴史民俗博物館二枚、囃子図は欠

九月：国立音楽大学附属図書館竹内道敬文庫、日本芸術文化振興会、江戸東京博物館、個人（『川越氷川祭礼の展開』川越市立博物館編集・発行、一九九七年）

本図の右・中の出演者に関しては、先の絵本番付に照らしても問題ないものの、左の囃子図は検討を要する。市松模様の朝顔型障子屋根に造花を飾った底抜け屋台のなかでは、四人の三味線と五人の唄方が徒（かち）囃子で唄い奏し、屋台上には七人の芸名のみが記される。

実はこの囃子図は、日枝神社等蔵の五月節供の囃子図と同版であり、前掲の絵本番付の五月節供に記された囃子方・唄方と同名である。

つまり、本図左の囃子図は五月節供のものが取り違えられて伝来し、神田神社が近年購入した作品であり、残念ながら正月節供の囃子図は現在のところ確認されていない。

取違は正月節供のみならず、江戸東京博物館・神田神社・國學院大學博物館蔵の五月節供の囃子図は九月節供を描いたものである。

一体なぜ、このような取違が起こったのか。既述したように、この三種（三節供）の三枚続錦絵は同時制作、発売の一セットとして宣伝、流通、販売され、伝来した可能性が高い。囃子図の絵柄は酷似しており、間違えやすく、取違や紛失が生じたものと思われる。しなしながら、五月囃子図の取違がいずれも正月ではなく、九月である点については、正月囃子図の探求とともに今後に期したい。

名誉宮司宮西惟道大人命一年祭

名誉宮司宮西惟道大人命の一年祭が、大塚正行権宮司齋主の下、帝国ホテル孔雀の間にて執り行われました。

当日は台風二十四号上陸の影響で風雨が強い日であったにもかかわらず、責任役員細田安兵衛殿、東京都神社庁平岩昌利名誉庁長・東京都神社庁小野貴嗣庁長を始め、責任役員大総代氏子崇敬会役員、神社関係者等三百名を超える方々が参列されました。

祭典の後は同会場にて直会を行い、在りし日の名誉宮司の映像が流れる中、和やかに故人を偲びました。

麹町消防少年団 麹町消防少年団来社

11月11日（日）に麹町消防少年団の皆さんがお越しになり、七五三や結婚式で賑わう境内にて火災予防運動の広報活動を行いました。

抜穂祭執行

9月2日（日）に千葉県香取市の御神田に於いて抜穂祭を執行しました。

当日は雨にも係わらず、氏子崇敬者多数参加の下、稲刈り奉仕を行い、収穫された新穀は11月23日（金）の新嘗祭にお供えされました。

「日枝神社広報大使」に井本 彩花さん

今年度の日枝神社広報大使に女優の井本彩花さんが就任されました。

十月三十日（火）の就任式の際には神前にてお参りの後、多数の報道陣に囲まれながら、七五三の思い出や巫女への思い入れを語られました。

今後は広報大使として東京メトロ全線の社内ビジョンにて配信されるCMに出演される他、二月三日（日）に執り行われる「節分祭」にも、特別年役として参列を予定しております。

ピーポくん出動

10月9日（火）に、平成30年全国地域安全運動の一環として、麹町警察署署員の方々と共に、警視庁マスコットのピーポ君が来社し、広報活動をされました。

七五三詣のお子さんや戌の日の安産祈願の御夫婦と共に、和やかに写真撮影等を行いました。

日枝神社家庭暦上梓

「平成三十一己亥（つちのとゐ）年日枝神社家庭暦」。現在、二百円にて頒布中です。

訃報

責任役員 泉 邦夫 殿

平成三十年九月六日

泉邦夫殿は平成二十三年十二月から当神社責任役員、氏子崇敬会副会長を務められ、神社の維持運営に御尽力されましたが、平成三十年九月六日に逝去されました。

（行年七十一）ここに御功績を称え、謹みてご冥福をお祈り申上げます。

山王台通信

神社本庁辞令

主典 小野 太誠
日枝神社権禰宜に任ずる
（平成三十年六月一日付）

権禰宜 伊久 裕之
東京都 福徳神社権禰宜に転任
（平成三十年七月一日付）

権禰宜 小野 太誠
北海道 飯生神社禰宜に転任
（平成三十年七月一日付）

〈通巻 百三十三号〉
発行 平成三十一年一月一日
編集 日枝神社社務所
東京都千代田区永田町二丁目十番五号
（郵便番号 一〇〇-〇〇一四）
TEL ○三-三五八一-二四七一（代表）
FAX ○三-三五八一-二〇七七
http://www.hiejinja.net/

©わたせせいぞう

平成 31 年厄年表（数え年）

男の厄年

前　厄	本　厄	後　厄
平成8年生 24歳 ね（ねずみ）	平成7年生 25歳 ゐ（いのしし）	平成6年生 26歳 いぬ
昭和54年生 41歳 ひつじ	昭和53年生 42歳 うま	昭和52年生 43歳 み（へび）
昭和35年生 60歳 ね（ねずみ）	昭和34年生 61歳 ゐ（いのしし）	昭和33年生 62歳 いぬ

女の厄年

前　厄	本　厄	後　厄
平成14年生 18歳 うま	平成13年生 19歳 み（へび）	平成12年生 20歳 たつ
昭和63年生 32歳 たつ	昭和62年生 33歳 う（うさぎ）	昭和61年生 34歳 とら
昭和59年生 36歳 ね（ねずみ）	昭和58年生 37歳 ゐ（いのしし）	昭和57年生 38歳 いぬ

東京都千代田区永田町２丁目10番５号
TEL. 03-3502-2205
FAX. 03-3502-8948
http://www.hieakasaka.net/

日枝神社
結婚式場
日枝（ひえ）あかさか